



# ギリシャの友人たち

昨年の冬に数日間、友人と一緒に休暇でギリシャへ行って来ました。初めて足を踏み入れたギリシャ。アテネは必ず行っておきたいと思っていたので、初めにアテネで2日間滞在。一緒に行った友人の元同級生(ギリシャ人)、エビーナさんがアテネに住んでいるというので、有難くもそこにお邪魔させてもらえることになりました。

エビーナさんは、英国で照明デザインを勉強した後、数年間ロンドンでフリーをし、その後、帰国して地元の劇場でフリーで働いているそうです。「アテネで照明デザインのお仕事はたくさんありますか?」と質問すると、「デザインの仕事は、簡単には手に入らないけど、私はプログラマーとして生計を立てているわ。たまにデザインも頼まれるけど。」と教えてくれました。私も入れて我々3人も舞台照明ガールズ(ウォーメン?)だったので、英国とギリシャの仕事環境の違いなど、照明関係の話で盛り上がりました。エビーナさんは最近よく、ギリシャ国立劇場で働いていて、彼女がデザインした公演の写真をいくつか見せてもらいました。「ギリシャの国立劇場でデザインすることなんて、英国にいた頃は夢にも思わなかったけど、英国で学んだハイスタンダードの技術や知識を故郷にもち帰って、仕事で活かしているうちに、信頼とネットワークが広がっていったのを実感したわ。」と語る彼女。なるほど。確かに、技術や思考の輸入と輸出は、海外遠征をする我々にとって課せられた、任務であるのかもしれませんが。



ギリシャオリンピック2004・アーカイブ

2004年のギリシャオリンピック開会式の振付家ドミトリス・パパイオアンオウ氏の専属照明プログラマー(最近から)も担当エビーナさんは、彼とどのような働き方をするかなども教えてくれました。ペインターでもある彼の色の選び方は、絵の具での混色方法が基礎になっているらしく、彼が口で説明するRGB混合の色を、エビーナさんがCMYで訳し、卓を使って表現するというプロセスを積み重ねていく間に、2人の信頼関係が築かれていったと言います。例:「梅雨を感じさせる紫をちょうだい。そうそう。もっとしっとりした感じ。湿度あげて。」のようなやり取りだそうです。照明家でも、このようなイメージのみの指示出しをされる方もいらっしゃるでしょう。前者のプロセスのほうが、プログラマーに作りたい照明の雰囲気や伝わりやすいですが、デザイナーとプログラマーの美的感覚があまりにも違いすぎると、このやり方は成功につながらないので、やはりデザイナーとプログラマーの信頼関係というものは、どこにいても、とても大事だということがうかがわれます。プログラマー、そしてデザイナーとしても活躍する彼女の今後に期待が高まります。

アテネの次に訪れたのは、トルコのすぐ西隣にある、ギリシャの小さな島、サモス島です。ギリシャ人舞台美術家である私の友人、ミカイリスが数年前に、ここサモス島に住み始めたので、彼に会いに行きました。1年のうち、6ヶ月間はロンドンで働いてお金をため、残りの6ヶ月はサモス島で静かに過ごすというのが、彼のライフスタイルになりつつあるそうです。彼の住居から3分歩くと、そこに

はエメラルドグリーンに清らかに透き通った海が広がっていました。『なんて夢のようなライフスタイルを送っているのだろう』と羨ましく思いますが、自国への心の格闘もあるようです。ある日、彼は自国(ギリシャ)の国民性について、こう話していました。「我々ギリシャ人は個人主義者が多く、基本的にチームワークや団結意識が、日本などに比べると大分低い国だと感じるよ。唯一、2004年のギリシャオリンピックの頃に、私はロンドンから帰国してきて、オリンピックの舞台美術スタッフとして働いたときは、ギリシャ人全員が、1つの目標に向かって頑張ろうという凄まじい団結力を初めて見せたときだったと思う。とても嬉しかったよ。これぞ、真なるコミュニティーの姿、これぞ僕が帰ってきたい故郷だと感じたんだ。しかし、オリンピックが終わってしまうと、みんな自分中心のスタンスに戻って行ってしまって、とても失望したよ。だから、一時期またロンドンに戻ってきたんだ。」と話していました。「真のコミュニティーとは何か。たとえば、静かなビーチにバーが1件建ちました。そこはわりと繁盛しました。すぐにもう1件、別のバーが近くに建ちました。初めに建てたバーのオーナーは、2件目のオーナーを歓迎するか、それともその店を潰したいと願うかのどちらかに分かれる。(彼が言うギリシャの個人主義者というのは、後者のことだそうです。)自分の利益のことで頭が一杯で、長い目を見たコミュニティー全体の成長と発展への向上は、二の次にされてしまっている。それがとても悲しい。」と、彼は吐いていました。その傾向が、ギリシャの不況にそのまま表れているようです。そんな彼は、希望を捨てず、文化面で印象が薄いこの島を、アートでもっと活性化させようという目的で、1から小規模な劇場・コミュニティーアートセンターを作ろうという計画を練っているそうです。逞しい限りです。将来、無事に劇場が出来上がったなら、せめて照明の設営などを手伝いに行けたらいいなと思います。頑張れミカイリス!